

1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と広い運動場、整った設備の中で、いきいきとした「心身の健康」と「体力増進」を中心に、一人ひとりの個性や諸能力を十分に発揮させ、情操を豊かに人間形成の基礎を確立することを目標とする。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領について理解を深め、職員一人ひとりが丁寧に子ども達と向き合い、個々の発達に合わせたカリキュラムを作成する。

また、保育者主体ではなく子ども達自身で考え、行動できるよう「環境構成」・「幼児理解」を深める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理 由
幼稚園の教育課程の編成 実施や目標に基づいて 計画性や保育教育のあり方	B	保育の計画性については、子ども達が安全に過ごせるよう遊具や玩具に危険がないか日々点検を行うとともに、子ども主体の活動ができるような環境設定を行った。各学年、子どもの成長に合わせた週案を作成し、行事等は早い時期から活動に取り組むことができた。
具体的な保育の在り方 幼児への対応や保育内容 教職員の共通理解	A	日々の保育の中で、一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、子どもに寄り添った言葉掛けや援助を行う上で、子ども達が楽しいと感じることができるよう毎日の保育を行った。また、基本的な生活習慣を身に付ける指導を徹底し、コーナー遊びや廃材を使つての遊びを取り入れることで、子ども達自身が自ら遊びを工夫し、考えて行動する様子が見られるようになった。教職員の共通理解として、行事前には教職員間で内容の確認や役割分担等の会議をとり、より円滑に行事が行えるようにした。また、日々の子どもの様子に関する伝達を怠ることなく、連絡アプリによる活動報告を活用し、全教職員で共通認識できるよう心掛けた。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	B	個人情報や職務上知り得たプライバシーに関する情報等の秘密を厳守することができた。気になる子どもやクラス内にて不安に感じるものがあつた時は、他の教諭やキンダーカウンセラーのアドバイスをもとに、子ども達への寄り添い方や言葉掛けに工夫を凝らし、丁寧に保育を行うようにした。その反面、学年の異なる教職員との関わりや連携に弱さを感じる部分があつた為、次年度は今年度以上に教職員間の連携・相互理解を深めていけるよう改善を試みたい。
保護者への対応	A	園での子どもの様子をお伝えするだけではなく、連絡アプリを活用することで家庭での様子も分かり、担任と保護者間において、より明確に情報共有することができた。また、担任は子どもの様子をお伝えする際、保護者一人ひとりに対し細かく丁寧に対応することを心掛けた。

地域とのかかわり	C	地域の方も参加可能なバザー模擬店の開催に加え、今年度はじめて満3歳児を対象に園庭開放を月に1回実施することができた。また、今年度より開設した SNS を活用したことにより、昨年度より多くの方に幼稚園の情報を発信することでき、その結果、バザー模擬店への参加者増員や園庭開放参加に繋げることができた。しかし、小学校との交流は今年度も難しく関わりをもつことができなかった。
研修の取り組みについて	B	新任研修を含め、全教職員が意欲的に研修に参加することができた。今年度は、教職員全員が対面での研修に参加し、園内にて研修報告会を実施したことにより、他の教職員から学んだことも保育活動に活かすことができた。
安全面に配慮した 環境づくりと地域の自然や 社会との関わりや取り組み	A	防犯・防災・防火訓練においては、想定外のことが起こった時の対応ができるよう、訓練後に毎回反省会・会議をとるだけではなく、復習や再シミュレーションを行うことにより、さらに危機管理意識を高められる結果となった。また、日々遊具・玩具の安全点検を怠らず、気になる箇所があった場合は、迅速に対応し危険を未然に防ぐことができた。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	1年を通して子ども達が「楽しい園生活」を過ごせるよう、教職員全員が子ども達に対して何をすべきか、また、より質の高い保育をする為にはどんなことを工夫すればよいのか等を話し合いカリキュラムを考え、教育・保育活動に取り組むことができた。 一方で、ここ数年、力を入れて取り組んでいる運動遊びについては、行事が重なる時期は、時間に余裕がなく運動遊びに取り組めていない時期もあるので、少しの時間だけでも身体を動かし「継続することの意味や大切さ」を考え、保育者が一日の活動の中に組み込んでいけるようにする。次年度の課題としては、学年の異なる教職員との連携不足により伝達がうまくできていないことが多くあったので、今後は縦の連携をより一層強化していきたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子どもとの関わり 環境構成について	子ども達をよく観察し、年齢や個々の発達段階を理解した上で、一人ひとりに合った保育や声掛けを行うようにする。 また子ども達が、自らの思考で考えて行動できるような環境づくりに取り組んでいけるよう、保育内容を考えていきたい。
運動遊びの 取り組みについて	各学年に適した運動カリキュラムを作成し、1年を通して短期目標と長期目標を掲げる。 また、集団遊びや異年齢との運動遊びを取り入れることで、目標達成に向かって互いに意識し向上心をもって活動に取り組めるよう保育内容を充実させる。

環境構成の 取り組み	子ども達が自発的に遊びを選択できるように、教材や廃材を自由に使えるよう準備するだけでなく、机や椅子・道具の配置等にも工夫した環境構成を行う。 また保育者主体ではなく、子ども達の意見を積極的に保育に取り入れる。
地域社会 研修について	地域社会については、園周辺の施設を知り、職員間で共有するとともに地域交流ができるよう話し合いの場を設け、子ども達と地域の方とのふれあいの機会や関わりがもてるよう検討していきたい。 研修については、発達や支援・偏食等、今の時代特有の問題に対して学べる研修に積極的に参加したい。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。